

令和5年度幼稚園学校評価（大社幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○「月別指導計画」「学級経営の反省」を作成し、ねらいや内容・課題を明確にして保育を行っている。 ○月初めに各学級の「月別指導計画」について協議し、多面的な視点で点検し、保育の向上に務めている。 ※保護者アンケート…A評価79.3ポイント(昨年度より+26ポイント)	3	3	①「育てたい3つの柱」を教育課程と照らし合わせて、具体的に日々の保育と行事の視点として位置づける。 ②「学級経営室」「月別指導計画」に基づき、保育の振り返り・考察・改善を補助教諭も含めてしていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達から課題を捉えて保育を行っているか。	○「すべての子どもをすべての職員で見守る」という方針のもと、子どもの成長や課題について、日常的に話題にして職員間で情報共有している。 ○配慮を要する子どもについては、職員会議で一人一人の成長ぶりや課題について共有し、よりよい支援につなげるようにした。 ※保護者アンケート…A評価79.3ポイント(昨年度より+19.3ポイント)	3	4	①「子どもを語る会」を定期的に開催し、多角的に現状や課題解決について協議し、支援体制の向上を図る。 ②補助教諭を含めた情報交換・共有の場を定期的に設定し、連携を深める。 ③日々の保育を記録し、子どもの見取りや課題を明確にして見通しをもって支援にあたるようにする。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○「教育支援ファイル」を作成している子どもについて、学期ごとに保護者や関係者を含めて「園内支援委員会」を開き、情報共有をして連携を取った。 ○「巡回相談」で指導を受けたことについて、管理職、担任と補助教諭で共有し、支援方法の改善に生かすようにした。	3	4	①特別支援教育に関する研修に積極的に参加し、専門的な知識や技能を高める。 ②学期ごとに「園内支援委員会」を開催し、共通理解をして支援にあたる。 ③支援の方針方法を教職員間で共有し、どこでも誰でも適切な支援ができる体制を作る。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権・同和教育の視点を意識し、子どもの背景を踏まえ、人権感覚をもって接して関係づくりをするように心がけている。好ましくない言動があったら、その場で指導し、必要に応じてクラス全体で考えるようにしている。 ○事業によっては、情報共有と当該園児やその保護者への対応について協議した。 ○人権・同和教育の研修会に参加した教職員は、学んだことを全体に広げ、新たな気づきにつなげるようにしている。	4	4	①「進路保障」の理念をもって、子どもの背景を踏まえて一人一人の子どもたちの言動に目を向け、「生きる力の基礎」の育成に努める。 ②職員は「差別の実態から学ぶ」という意識をもち、積極的に研修に参加し、人権感覚を高める。そして、学んだことは、全体に広げて園の人権意識を高める。 ③保護者や地域を含めた人権教育について共に学ぶ機会をつくる。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○昨年度までの行事の反省をもとに、新型コロナウイルスへ移行後の行事のあり方について検討しながら交流行事を行うことができた。 ○各行事について、ねらいを明確にした計画を策定し、実施後は振り返りを行って次年度につなげるようにした。 ○愛育会・祖父母会と連携して効率よく行事が実行でき、ねらいに迫ることができた。(米作り・運動会・生活発表会・焼き芋パーティー) ※保護者アンケート…A評価82.8ポイント(昨年度より+22.8ポイント)	4	4	①ねらい(育てる力)や意義を明確にして実施計画を立て、実行した後にはねらいに沿って振り返りを行い、次年度につなげる。 ②子どもたちの負担や遊び時間の確保も考慮しながら計画・立案する。 ③「地域の園」として今後も積極的に地域と関わり、地域の人材や素材を導入していく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○小学校区園長・校長会(1校2園)を定期的に開催し、管理職の連携を図った。 ○小学校や保育園との交流活動を計画的に行った。(園交流・地震体験車・保幼小交流の日・小学校ゆうゆうパークでの遊び) ○今後は、管理職以外の教職員が直接的に交流・連携する機会を設定することが課題である。 ※教職員アンケート…A評価60ポイント(昨年度25ポイント)	3	3	①小学校の「ゆうゆうパーク」などに行ったり、小学生と交流をしたりして、小学校を身近に感じられるようにする。 ②配慮が必要な年長児について、交流の機会を利用して小学校の先生に実際の姿を見てもらう。 ③小学校の授業参観や研修会に積極的に参加し、職員間の交流を盛んにする。 ④幼小の教育課程を比較することで、カリキュラムの接続を意識する。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携 幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	【保護者連携】 ○クラスだより・連絡ノート・昇降口掲示・HPによって園の活動や連絡事項を伝えた。 ○個人懇談(年2回)、降園時に個々の子どもの成長や課題、家庭での悩みなどについて直接保護者と話すことができた。 【地域連携】 ○各コミセン行事への参加や吉兆行事等、地域と連携した活動ができた。また、地域の人材に積極的に園行事等に関わってもらった。 ※保護者アンケート…A評価82.8ポイント(昨年度より+36.1ポイント)	3	4	【保護者連携】 ①どの保護者に対しても、「迅速・誠意」をもって応対し、関係づくりにもめる。 【地域連携】 ①「地域の幼稚園」として積極的に「地域のひと・もの・こと」を活かした活動を更に進める。 ②地域に向けて、様々な方法(ホームページ・マスコミ取材・園だより・PR)で積極的に園の活動や経営について発信する。 ③未就園児教室(ひよこランド)について広く周知し、参加者を増やし、園児の確保につなげる。	
研修	⑧研究・研修 教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○独自に「育てたい3つの柱(力)」を設定して子どもの育ちや教師の取組の視点とした。それをもとに、めざす子どもの姿に近づけるように研究職員会議等で教師の支援を話し合い、実践に生かしている。 ○各種研修に積極的に参加して自己研鑽に努めた。また、研修成果を他の教職員に伝えて共有化を図った。	3	4	①定期的に研究職員会議を開催し、「育てたい3つの柱(力)」に沿った実践と検証・改善を継続的に行う。 ②「学び続ける教職員」として各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。そして、学んだことは園内で共有する。	
組織運営	⑨園務 教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○職員同士、互いに声を掛け合いながら協働の意識をもって園務の遂行することができた。「働き方改革」を意識しながら、効率よく園務が遂行できる方法を互いに相談しながら取り組んでいる。 ○週に1日の定時退勤日を設定し、心身のリフレッシュをするように意識化を図った。	3	4	①引き続き「定時退勤日」を設定し、「働き方改革」の意識をもち、より効率的・効果的に遂行できるように園務の見直しを図る。 ②「協働」の意識をもち、互いに確認しながら共に負担感なく園務が遂行できるようにする。 ③職員の内身のリフレッシュにつながる取組をし、働きやすい職場環境づくりに努める。	
安全管理・保健管理	⑩危機管理 園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	【安全管理】 ○学期に1回ごとの避難訓練を実施し、子どもの安全意識を高めながら、安全で衛生的な園生活が送れるように務めた。職員の危機管理能力を高めるために、不審者対応訓練や緊急時の連絡方法の確認などを行った。 ○スクールタクシーについて、関係機関等と連携して安全に運行できた。 【保健管理】 ○保健所の衛生指導を受けて、これまでの衛生管理の見直しをした。 ※保護者アンケートでC・D・E評価20.6ポイントある。 教職員はC・D評価はなく、A・B判定で100ポイントになっている。双方で乖離がみられる。	3	3	【安全管理】 ①計画的に訓練を行い、子どもの安全意識の向上と教職員の危機管理能力の向上を図る。 ②園での避難訓練や安全指導について保護者に知らせ、家庭と連携して安全意識の向上を図る。 【保健管理】 ①健康観察や衛生管理に気を配り、感染症予防やアレルギー対応に努める。 ②排せつ処理などのマニュアルを作成し、全職員同一の方法で処理ができるようにする。	
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備 園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月「安全の日」を設定し、園内外の安全点検を実施した。修繕や対応すべきところは、すぐに教育委員会に報告している。 △施設管理が必要などころは、すぐに教育施設課に連絡をしているが、早急には対応してもらえていない。 ※保護者アンケート…C・D評価20.6ポイント	2	2	①毎月「安全の日」を設定し、安全点検や子どもたちの安全意識を向上させる取組を行う。 ②引き続き教育委員会と連携をしながら、子どもたちや教職員の安全を確保するために迅速な対応を心掛ける。	

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する